

平成17年度 一般会計補正予算 などを可決

～平成17年第3回定例会

9月21日に招集された第3回定例会の中から、10月3日までに議決された議案などについてお知らせします。なお、10月4日以降の内容は、12月号でお知らせします。

編集●札幌市議会事務局 ☎211-3162 FAX218-5143 市議会ホームページアドレス●www.city.sapporo.jp/gikai

代表質問から

今回の定例会では、九月二十七日から二十九日までの三日間の日程で代表質問を行いました。その中から主なものをお知らせします。

厚生年金会館の存続

長内 直也(自民党)

問 厚生年金会館は、昭和四十六年の開館以来、さまざまなコンサートや演劇、集会などが開催され、札幌のみならず北海道の芸術文化の振興に大きく貢献をしてきた。

しかしながら、国の動きとして、「独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構法案」が本年六月に可決され、整理合理化対象施設は、五年以内に民間などへ譲渡または廃止することとされ、売却の場合は原則一般競争入札で行うこととなっている。札幌市や北海道がすぐにこれを買うというにもならない経済状況も十分承知をしているが、札幌市で考えた場合、札幌市民会館の老朽化が激しく、延命化を図っていくとしても、その大型耐震化改修工事をはじめ、毎年の維持管理費は、非常に高額になることは容易



に推察できる。つまり、厚生年金会館の存続問題を、札幌市民会館の今後の建て替えも含めた未来像とともに考えていく必要があると考えている。札幌市として、厚生年金会館の存続について、どのように取り組むのか、また、札幌市民会館の未来像をどう考えるのか、併せて伺いたい。

答 全道的な存続に向けての取り組みの中で、北海道や経済団体などの各種民間団体と連携しながら、厚生年金会館存続の道を探っていききたい。また、市民会館は、芸術・文化活動に加え、コミュニティ活動の拠点として、市民にとって極めて重要な役割を果たしている施設である。現在の建物の現況調査を行っている

経済問題

村上 勝志(民主党・市民の会)

ことから、その結果を踏まえ、今後の在り方について検討していきたいと考えている。

問 北大の中にある「コラボほっかいどう」という施設は、北海道開発局の求めにより「北方系植物資源データベース」を構築し、食料・農業分野のバイオベンチャーの育成に取り組んでいる。同施設の効果期待される「イヌリン」という物質を抽出し、量産するめどをつけているが、残念ながら地元企業はこれにかかわっていない。

私はこれまで、市内の農業・経済振興を促進する観点から、産学官の連携を強化すべきと訴えてきた。市長が唱える「元氣な札幌」をつくるため、産学官連携による地域の産業資源を生かした産業振興の取り組みをどう支援していくか、具体的なところ、具体的なことは、どうなのか、伺いたい。

答 本市では、これまでも「コラボほっかいどう」の運営主体となっている財団法人北海道科学技術総合振興センターと密接な関係を構築してきており、「産学官共同研究による新製品開発」や「IT・バイオ分野の企業マッチング」などの事業連携で具体的な成果が出ているところである。今後においても、本市が重点的に取り組もうとしている「バイオ」や「食」などの分野において、同財団との連携が必要不可欠であると考えており、企業などの研究開発から販路拡大までを一貫して支援する同財団の産業育成の取り組みを、本市も積極的に活用し、地域の産業資源を生かした産業の振興を図っていきたいと考えている。



公共施設の長寿命化の取り組み

三浦 英三(公明党)

問 わが会派は、かねてから「行政のスリム化」すなわち民間でできることは民間で行